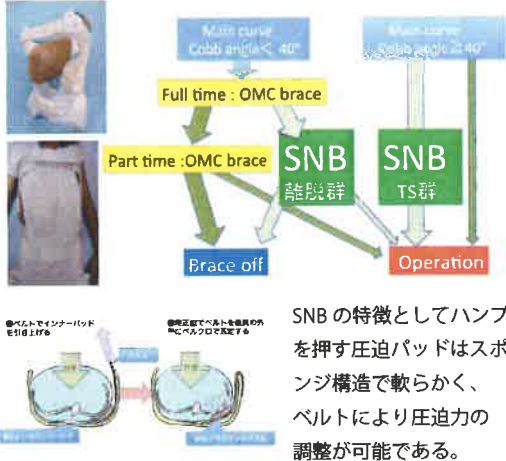


特発性側彎症に対する装具療法における 夜間装具の役割

大阪医科大学 整形外科教室 藤原憲太 金 明博 根尾昌志
今津病院 小児・側彎センター 瀬本喜啓

特発性脊椎側彎症の保存療法に、2010年より大阪医大式装具（以下 OMC brace）の段階的離脱時および手術までのタイムセービング（以下 TS）を目的として瀬本・永野式夜間装具（Semoto-Nagano night brace 以下 SNB）を使用している。



SNBの特徴としてハンブを押し圧迫パッドはスポンジ構造で軟らかく、ベルトにより圧迫力の調整が可能である。

【目的】 OMC braceの補助装具としてのSNBの有用性を検討したので報告する。

【対象】 2010年以降にSNBを処方した症例の内
*OMC braceの段階的離脱の際にSNBを使用した症例 : 17例 (離脱群)

性別: 女性15名、男性2名
OMC brace処方時年齢: 平均11歳8カ月 (10-14歳)
成熟度: Risser III以上が18%
SNB処方時年齢: 平均14歳2カ月、
成熟度: Risser III以上が70%

*手術までのタイムセービングを目的としてSNBを使用した症例 : 6例 (TS群)

性別: 女性6名、男性0名
SNB処方時年齢: 平均15歳 (13-18歳)
成熟度: Risser III以上が83%

【方法：調査項目】

離脱群

- ・装具処方前後でのCobb角
 - *OMC braceは立位単純X線像で計測した
 - *SNBは臥位単純X線像で計測した
- ・OMC brace装着期間



TS群

- ・SNB処方前後でのCobb角
- ・SNB装着時のCobb角を最終観察時に調査
- ・装具装着期間

初期矯正量: 装具処方前後のCobb角の差とした

【結果】

離脱群

- ・装具処方前後のCobb角
 - OMC brace(立位)
 - 装具処方前: 平均 34° (23-47°)
 - 装具処方後: 平均 25° (15-36°)
 - SNB(臥位)
 - 装具処方前: 平均 33° (31-43°)
 - 装具処方後: 平均 24° (8-35°)
- ・OMC brace装着期間: 平均2年4カ月

OMC braceとSNBの初期矯正量

	OMC brace	SNB
初期矯正量	9.4° (1~20°)	9° (1~17°)

p=0.97

TS群

- ・SNB処方前後のCobb角
 - 装具処方前: 平均 34° (25-47°)
 - 装具処方後: 平均 21° (3-31°)
 - 最終観察時: 平均 24° (6-35°)
- ・SNB装着期間: 平均1年1カ月

SNBの処方後と最終観察時Cobb角



症例数 15歳 女児 TS群 (現在も装着中)



【考察】

離脱群においてSNB処方時のRisser分類はIII以上が多く、骨成熟しつつある時期においてもOMC braceと同等な矯正量が得られていた。

SNBは臥位で使用するという利点もあり、OMC brace以上の矯正力が期待できると思われた。

$$\begin{matrix} \text{OMC brace} & & \text{SNB} \\ \text{矯正量} & \doteq & \text{矯正量} \\ \text{立位} & & \text{臥位} \\ \text{矯正力} & < & \text{矯正力} \end{matrix}$$

また短期の成績ではあるが矯正力が維持できる結果からSNBは手術までのタイムセービングに有用と思われた。

【まとめ】

SNBは骨格が成熟しつつある時期においてOMC braceと同等またはそれ以上の矯正力が期待できる装具である。